イベント会場等における火気取扱い注意事項

2013 年（平成 25 年）８月１5日に、京都府福知山市花火大会で露店火災が発生し、59 名の死傷者が発生しました。

≪ガソリン携行缶の取り扱い≫

１　ガソリンを入れる容器は、金属製の容器でなければいけません。
２　直射日光があたる場所や、車内等での保管は大変危険です。
３　携行缶のキャップは、正しい手順で開口してください。（別紙参照）
※　ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して事故を引き起こすおそれがあります。

≪発電機の取り扱い≫

１　風通しの良い地面に置く。
２　まわりに物を置かない。
３　物を載せない。
４　給油時、エンジンを停止する。

≪プロパンガスボンベの取り扱い≫

1　屋外で使用する場合は、強風や煮こぼれ等でガスの火が消えることがあります。
2　ボンベは転倒防止のため、平らな場所に置くようにしてください。また、火気から２m以上離して置くようにしましょう。
3　ゴムホースのヒビ割れ等を点検し、しっかりと取り付けましょう。

≪その他≫

1　消火栓や防火水槽等の周囲に、消防用の活動空地を確保してください。
2　消火器をすぐに使える場所に置きましょう。

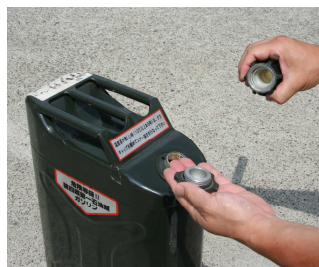
問い合わせ先：藤沢市消防局　予防課・査察指導課・警防課
ＴＥＬ　０４６６－２５－１１１１

別紙

参考：ガソリン携行缶開口手順

※　作業手順を誤ると、ガソリンが噴出して大変危険な状況になります。

①元のネジ部を少し緩め缶内の圧縮空気を抜く。

②空気が全て抜けたらノズルを本体から分離。

③ネジ部と平キャップをここで分離する。

④ノズルを接続する。

携行缶の種類によって、圧力調整ネジが付いているものがあります。作業手順が異なる場合があるため、必ず取扱説明書等で確認しましょう。

ガソリンの貯蔵に適した容器の例（金属製容器であることが必要）	ガソリンの貯蔵に適さない容器の例（樹脂製容器は火災危険性が高い）